

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成21年2月12日(2009.2.12)

【公開番号】特開2006-176775(P2006-176775A)

【公開日】平成18年7月6日(2006.7.6)

【年通号数】公開・登録公報2006-026

【出願番号】特願2005-367022(P2005-367022)

【国際特許分類】

C 1 0 M 137/02 (2006.01)

C 1 0 M 169/04 (2006.01)

C 1 0 M 101/02 (2006.01)

C 1 0 M 177/00 (2006.01)

C 1 0 M 171/00 (2006.01)

C 1 0 N 30/06 (2006.01)

C 1 0 N 30/12 (2006.01)

C 1 0 N 40/04 (2006.01)

C 1 0 N 40/08 (2006.01)

C 1 0 N 40/25 (2006.01)

C 1 0 N 70/00 (2006.01)

【 F I 】

C 1 0 M 137/02

C 1 0 M 169/04

C 1 0 M 101/02

C 1 0 M 177/00

C 1 0 M 171/00

C 1 0 N 30:06

C 1 0 N 30:12

C 1 0 N 40:04

C 1 0 N 40:08

C 1 0 N 40:25

C 1 0 N 70:00

【手続補正書】

【提出日】平成20年12月19日(2008.12.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下記の成分を含む耐摩耗性添加剤組成物：

( a ) 少なくとも一種の酸性亜リン酸エステル化合物、

( b ) 少なくとも一種の中性亜リン酸エステル化合物、

ただし、( a ) と ( b ) との比は 1 . 0 : 1 0 . 7 乃至 2 . 0 : 1 . 0 である。

【請求項 2】

酸性亜リン酸エステル化合物が、亜リン酸水素二炭化水素エステルである請求項 1 に記載の耐摩耗性添加剤組成物。

【請求項 3】

亜リン酸水素二炭化水素エステルが、亜リン酸水素ジアルキルである請求項 2 に記載の耐摩耗性添加剤組成物。

【請求項 4】

亜リン酸水素ジアルキルが、亜リン酸水素ジラウリルである請求項 3 に記載の耐摩耗性添加剤組成物。

【請求項 5】

中性亜リン酸エステル化合物が、亜リン酸三炭化水素エステルである請求項 1 に記載の耐摩耗性添加剤組成物。

【請求項 6】

亜リン酸三炭化水素エステルが、亜リン酸トリアルキルである請求項 5 に記載の耐摩耗性添加剤組成物。

【請求項 7】

亜リン酸トリアルキルが、亜リン酸トリラウリルである請求項 6 に記載の耐摩耗性添加剤組成物。

【請求項 8】

(a) と (b) との比が、1.0 : 10.1 乃至 1.6 : 1.0 である請求項 1 に記載の耐摩耗性添加剤組成物。

【請求項 9】

(a) と (b) との比が、1.0 : 9.9 乃至 1.0 : 1.6 である請求項 8 に記載の耐摩耗性添加剤組成物。

【請求項 10】

(a) と (b) との比が、1.0 : 9.1 乃至 1.0 : 3.0 である請求項 9 に記載の耐摩耗性添加剤組成物。

【請求項 11】

潤滑粘度の油と請求項 1 乃至 10 の内のいずれかの項に記載の耐摩耗性添加剤組成物とを含む潤滑油組成物。

【請求項 12】

下記の工程からなる耐摩耗性添加剤パッケージの製造方法：

少なくとも一種の酸性亜リン酸エステル化合物を、少なくとも一種の中性亜リン酸エステル化合物と混合する、

ただし、酸性亜リン酸エステル化合物と中性亜リン酸エステル化合物との比は、1.0 : 10.7 乃至 2.0 : 1.0 である。

【請求項 13】

下記の工程からなる潤滑油組成物の製造方法：

潤滑粘度の油を、少なくとも一種の酸性亜リン酸エステル化合物および少なくとも一種の中性亜リン酸エステル化合物と、逐次にもしくは同時に混合する、

ただし、酸性亜リン酸エステル化合物と中性亜リン酸エステル化合物との比は、1.0 : 10.7 乃至 2.0 : 1.0 である。

【請求項 14】

接触する金属部品を請求項 11 に記載の潤滑油組成物を用いて潤滑を行なうことからなる金属部品の摩耗低減方法。